



機械器具51 医療用嘴管及び体液誘導管
高度管理医療機器 心臓・中心循環系用カテーテルガイドワイヤ 35094114

チョイス PTCA ガイドワイヤー

(チョイスPT、PT グラフィックス)

再使用禁止

【禁忌・禁止】

1.使用方法

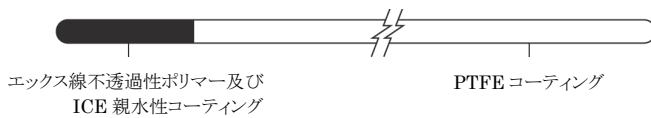
- (1) 再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

1.形状・構造

- (1) 本品は、0.37mm(0.014inch)の公称径で、182cm又は300cmの公称長を有するガイドワイヤーである。このガイドワイヤーには、スタンダードからフロッピーに及ぶ先端部のフレキシビリティの種類がある。本品の先端部の2cmは、希望する形状に成形することができる。テーパ形状のコア・ワイヤーは、先端部から手元部までを、ICE親水性コーティング材でコーティングされたフッ化ポリマーのポリマー・スリーブで覆われている。
 - (2) 182cmのガイドワイヤーの手元にあるマグネット部分は、マグネットエクステンジデバイスを併用すると、治療用デバイスの交換を容易に行うことができるように設計されている。マグネット部位はPTFEコーティングがされており、外径が最大0.39mm(0.015inch)になる。
- * また、ガイドワイヤー長182cmのモデルには、弊社製の着脱式延長ワイヤー(販売名:トウルーパー/パトリオット PTCA ガイドワイヤー、承認番号:21100BZY00614000)(エクステンション・ワイヤー:Addwire)との併用により、治療用デバイスの交換が容易にできるよう設計されているモデルもある。
- (3) 全長が300cmのガイドワイヤーでは、エクステンション・ワイヤー又は交換システムを使用せずに治療用デバイスを交換することができる。

<図-1 外観図>



<主な原材料>

ステンレス鋼、ポリウレタン/タングステン、ポリテトラフルオロエチレン、ポリウレタン、ポリビニルピロリドン

【使用目的又は効果】

本品は、経皮的冠動脈形成術(PTCA)用バルーンカテーテル等のカテーテルのガイドとして冠動脈狭窄部等の患部へ導入するガイドワイヤーである。

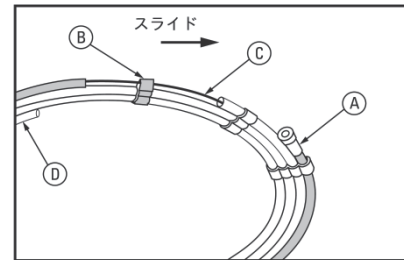
【使用方法等】

1.機器の準備

- (1) 製造販売業者の添付文書等に従って、インターベンション用デバイスを準備する。本品を挿入する前に、必ずインターベンション用デバイスのルーメンをヘパリン加生理食塩

液でフラッシュすること。ガイドワイヤーの親水性遠位部はディスペンサチューブ(保護用チューブ)の黄色の部分にあり、遠位端がハブ端[A]に最も近い。

<図-2 ディスペンサチューブ>



- (2) 本品をディスペンサチューブから取り出す前に、本品の親水性部分を水和させるため、生理食塩液をディスペンサチューブのハブ端[A]に注入し、ディスペンサチューブをフラッシュする。
- (3) ワイヤ保持クリップ[B]を取り外す。
注意:図-2で示した以外のディスペンサチューブでは、保持クリップの位置が異なることがある。
- (4) 本品[C]を慎重につかみ、図-2のディスペンサチューブに示す方向にスライドさせる。本品を簡単に動かせない場合は、ディスペンサチューブへの生理食塩液注入を繰り返す。
- (5) ディスペンサチューブ[D]から本品近位端を慎重に取り出す。本品を簡単に取り外せない場合は、ディスペンサチューブ内への生理食塩液注入を繰り返し、本品の取り外しを再度試みる。本品はディスペンサチューブから一旦取り外した後で再挿入してはならない。
- (6) 使用する前に、本品を点検し、破損していないことを確認する。
- (7) 必要に応じて標準的な手法に従い、ガイドワイヤーのフレキシブルな先端部を希望の形状にゆっくと成形する。先端部が鋭利な成形器具を使用しないこと。
注意:親水性コーティングワイヤーの表面が乾燥した場合は、生理食塩液で表面を湿らせると潤滑性を回復することができる。インサクションデバイス内に挿入する前に、ガイドワイヤーが完全に湿っていることを確認すること。

2.使用方法

オーバ・ザ・ワイヤシステム

- (1) 本品を治療用デバイス内に挿入する前に、ヘパリン加生理食塩液で治療用デバイスをフラッシュする。これにより、治療用デバイスのプライミングがなされ、治療用デバイス内で本品をスムーズに移動させることが可能になる。
- (2) ガイディングカテーテルのガイドワイヤー用ポートを通して、インサクションデバイスを入れる。
- (3) インサクションデバイスを通してガイディングカテーテル内

に本品の遠位端を慎重に挿入し、本品の先端部がガイドワイヤカテーテル先端部の近位に置かれるように本品を送り込む。

- (4) 本品の手元部方向にインサクションデバイスを引き抜く形で、インサクションデバイスを抜去する。
- (5) 治療用デバイスは、この段階で止血用Yアダプターを通してガイドワイヤカテーテル内への挿入が可能になる
- (6) システムはガイドワイヤカテーテルの先端部の近位の位置まで、オーバー・ザ・ワイヤシステムをガイドワイヤカテーテル内に進める。
- (7) 止血バルブを締めて治療用デバイス周囲を密閉する。その状態でも本品が意図したときに動くことを確認する。
- (8) 必要に応じてトルクデバイスを本品へ取り付ける。
- (9) 本品を治療用デバイスの外に出るように進め、一般的手法を用いて、治療用デバイスを一定の位置に固定した状態で、処置病変部を通過させ血管内まで本品を送り込む。本品を移動させる場合は、必ずエックス線透視下で本品の応答を観察しつつ行うこと。
- (10) 本品を一定位置に固定したまま、治療用デバイスを本品に沿って、病変部を通過するまでトラッキングさせる。
- (11) 異なるガイドワイヤが必要な場合は、本品の動きをエックス線透視下で観察しながら、本品を注意して抜去し取り外す。
- (12) 次に使用するガイドワイヤを準備し、上述の「オーバー・ザ・ワイヤシステム」の手順(2)～(9)に従ってガイドワイヤを挿入する。

シングル・オペレーター・エクスチェンジシステム又は「ワイヤ・ファースト」手法

- (1) 止血バルブ及びカテーテルのマニホールドのフラッシュラインを開放にする。インサクションデバイスを、止血バルブを通してガイドワイヤカテーテル内に挿入する。
- (2) 本品の遠位端を、インサクションデバイスを通してガイドワイヤカテーテル内に慎重に挿入する。
- (3) インサクションデバイスを取り出し、本品の送り込みを継続して行う。止血バルブが本品の周囲を密閉するように止血バルブの刻み付きノブを締め付ける。ただし、本品を動かす必要がある場合にその動きを抑制しない程度に締め付けること。マニホールド上のフラッシュラインを閉じる。
- (4) 必要に応じてトルクデバイスを本品へ取り付ける。
- (5) 本品をガイドワイヤカテーテル外に出るように進め、一般的手法を用いて、冠動脈内へ処置すべき病変部を越えて本品を送り込む。本品を移動させる場合は、必ずエックス線透視下で本品の応答を観察しつつ行うこと。
- (6) 異なるガイドワイヤが必要な場合は、本品の動きをエックス線透視下で観察しながら、本品を注意して抜去し取り外す。
- (7) 次に使用するガイドワイヤを準備し、[シングル・オペレーター・エクスチェンジシステム又は「ワイヤ・ファースト」手法]の手順(2)～(4)に従ってガイドワイヤを挿入する。
- (8) 治療用デバイスを本品に沿って病変部まで進めてトラッキングしながら、トルクデバイスを取り外し、本品を固定する。

治療用デバイスの交換

- (1) 準備及び使用にあたっては、上記の説明に従うこと。
- * 182cmガイドワイヤをオーバー・ザ・ワイヤ・システムでの交換に使用する場合は、マグネットエクスチェンジデバイス(本品に含まれない)もしくは着脱式延長ワイヤ(本品に含まれない)と併用しながら行うこと。
- (2) 交換を行う場合は、本品の位置を保ちつつ、本品に沿って治療用デバイスを慎重に引き抜くこと。
- (3) 製造販売業者の添付文書等に従って新たな治療用デバイスを準備し、本品上に配置する。治療用デバイスを本品に沿って進め、病変部まで送り込む。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

- (1) 本品の先端部を引っ張ってディスベンサチューブから取り外そうとしないこと。取り外す際は、先端部を破損させないよう慎重に行うこと。
- (2) 処置中は本品の取り扱いに注意を払い、偶発的な破損、曲げ、ねじれ又はコイルの離断が生じる可能性を極力少なくすること。ねじれおよび曲がりをまっすぐに伸ばそうとしないこと。ワイヤを破損させるおそれがあるため、ねじれた本品をバルーンカテーテル又はガイドワイヤカテーテル内へ挿入しないこと。本品が破損すると追加のインターベンションが必要になるおそれがある。
- (3) 本品はマグネット交換部分の直径が最大0.39mm(0.015inch)であるため、ルーメンの内径がそれ以上の治療用デバイスを併用すること。
- (4) カテーテル先端部の内径の違いにより、操作中に親水性コーティングの剥離が起こる可能性がある。カテーテル挿入時に抵抗を感じた場合には使用を中止すること。
- (5) 鋭いインサクションデバイスは、ポリマーコーティングの完全な状態を損なう場合がある。
- (6) 本品の損傷及びコーティングのせん断を避けるため、金属製を通して本品を引き抜いたり操作したりしないこと。
- (7) 本品に接続したトルクデバイスを締めすぎると、本品のコーティングを剥離させることがある。
- (8) 本品に著しい抵抗が感じられる場合は、トルクをかけたり、前進又は後退させたり、抜去したりしないこと。[血管の損傷、本品の破損又は先端部の分離を引き起こすことがある。]
- (9) 本品を体内に挿入した状態で操作を行う場合は、必ずエックス線透視下で行うこと。本品を移動させる場合には、先端部で生じる応答を観察しながら行うこと。
- (10) 手技中は先端チップを常時慎重にコントロールし、血管の切離や穿孔を避けること。[親水性コーティングは非親水性コーティングと比べ、操作時に血管壁の穿孔等を引き起こす可能性が高くなる可能性がある。]
- (11) スtent展開後に本品を前進させる場合は、慎重に操作を行うこと。血管壁に密着していないstentに再通過させる際、本品がstentストラットの間から出てくる可能性がある。この場合、本品に沿って併用するデバイスを前進させ続けると、本品とstentの間にもつれが生じる場合がある。
- (12) stentストラットの中を通過させて本品の操作を行わないこと。[コーティングの剥離や本品の損傷、又は断裂が発生し、本品の体内からの回収が必要となる可能性がある。]

【使用上の注意】

1.重要な基本的注意

- (1) 抗凝固療法禁忌の患者においては、リスクと有効性を十分に考慮すること。
- (2) 造影剤アレルギーの患者においては、リスクと有効性を十分に考慮すること。

2.不具合・有害事象

本品の使用によって、以下の有害事象が起こり得る。

重大な有害事象

- (1) 死亡
- (2) 心筋梗塞又は虚血
- (3) 心タンポナーデ/心嚢液貯留
- (4) 不整脈
- (5) 急性閉塞
- (6) 塞栓症
- (7) 血管血栓症
- (8) 血管攣縮
- (9) 血管外傷(解離、穿孔、破裂、損傷)
- (10) 仮性動脈瘤
- (11) 脳卒中/脳血管障害(CVA)/一過性脳虚血(TIA)

上記に示した有害事象においては、追加のインターベンション
手技が必要な場合がある。

その他の有害事象

- (1) 狭心症又は不安定狭心症
- (2) 造影剤による腎機能不全又は腎不全
- (3) 造影剤に対するアレルギー反応
- (4) 出血又は血腫
- (5) 感染症(局所感染症、全身感染症)
- (6) 穿刺部位の疼痛

【保管方法及び有効期間等】

1.保管方法

本品は、高温、多湿、直射日光を避けて保管すること。

2.有効期間

2年[自己認証による。]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者:

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

電話番号:03-6853-1000

製造業者:

コスタリカ ボストン・サイエンティフィック コーポレーション

[BOSTON SCIENTIFIC CORPORATION]